

順天堂大学 医療看護学部

5学部と6つの医学部附属病院群を持つ順天堂大学。その起源は1838年開業の、蘭学医学塾『和田塾』。学是である「仁」の精神（人在りて我あり、他を思いやり、慈しむ心）を基盤に、医療看護学部では「心身を癒す看護」を実践できる看護専門職者を育成しています。



■大学生
山岸幸平さん



■先生
村中陽子先生



■卒業生
佐藤亜紀子さん

CONTENTS

- プロフィール
- 大学生活について
- 5年後に向けて
- 高校生へのアドバイス

●プロフィール

村中先生の専門についてお聞かせください。

■先生

学部では基礎看護学が専門です。また、研究のテーマとしているのは、看護の基礎教育の中でも、とりわけ教授・学習過程に焦点をあてています。つまり看護を「いかに教えるか」に力点を置いて研究しています。

先生の経歴を教えてくださいませんか？

■先生

私はもともと、教員にだけはなりたくなかったんです。

■卒業生

え～！そんなこと言っているんですか。

■先生

姉が教育学部に行っていたので、同じ道は敬遠していました。私が高校時代に考えていたのは、ちゃんと手に職をつけて、自立すること。大分県出身なのですが、大分を出たいという一念で、大阪大学医療技術短期大学部看護学科に進学しました。

■大学生

何故、看護だったんですか？

■先生

親からは、大阪か川崎の親戚の家にお世話になることを条件に、大分を出ることを許してもらったんです。それで大阪大学の看護と医科歯科大学の衛生検査技師の2択になりました。最終的に看護を選んだのは、友人の「人を相手にする方がやりがいがあるのでは」という声が大きな決め手でした。

■卒業生

友達の声って影響力ありますね。先生の志望動機、初めて聞きました。

■先生

「人を助けたい」とか、立派な志望動機はなかったの（笑）。短大卒業後は、3年4ヶ月間、看護師として働いていました。そこで結婚を機に勤務シフトの調整が難しくなったので退職しました。その後、東海大学医療技術短期大学の助手になり教員としての人生がスタートしました。

■大学生

なりたくなかった教員に……



■先生

（笑）そう、教員になってしまいました。いろいろな大学の教育現場を見て、会議に出席したりして感じたのは、意見の正当性ではなく、キャリアのある先生の意見が通ってしまうことへの問題意識です。そして、中学や高校の教員になるためには免許が必要なのに、大学で教えるための免許はない。大学の教員も「教え方」をまなぶべきではないかという課題です。それならば教育学をしっかりと学び、正しい論理を主張できる知識と教育方法を身につけようと、玉川大学の文学部教育学科に編入しました。その後、北里大学大学院の看護学研究科や岩手県立大学大学院ソフトウェア情報学研究科を修了し、現職に至ります。

■卒業生

すごい！問題意識を持って進学されたんですね。

■先生

ほとんど成り行きの人生（笑）。学生には「目的をちゃんと持つように」と指導しているのにね。目的を持って焦点を定めて学ぶと、効率良く前に進めて到達が早くなるので、なるべく目標は持ったほうがいいですよ。私の場合は、身を置いた所で目的をもってトコトン頑張ります。

佐藤さんは、大学院に進学したのですね。

■卒業生

私は現在、順天堂大学大学院の医療看護学研究科、修士課程の2年です。専攻はがん看護学です。実は、大学を卒業後、聖マリアンナ医科大学病院に看護師として約3年間勤務していました。

看護師として印象に残っていることは？

■卒業生

2年目のことでした。会社経営をされていた60代の患者さんを担当していました、その方は肺がんで全身に転移していて手立てのない状態でした。全身が痛くて常に辛そうでした。私は声をかけ続け、薬を投与して効き具合を記録し、パターンを見つけ出していきました。薬のタイミングなどを工夫することで、体を起こしていただける時間も増えてきました。その方がある時「やり残したことがある」と言い出したのです。病室に社員を呼んで、会社の引き継ぎをしたいと希望されました。引き継ぎにかかる2時間、意識を正常に保てるよう一緒に頑張りました。社員の方の前ではキリっと仕事の顔になって。無事に引き継ぎが完了し、とても感謝されたことを覚えています。



■先生

2年目でそこまでできるなんて。佐藤さんからはよくメールをいただいていた、勤務1年目の時から、本当に患者さんに寄り添った看護をしているということは伝わってきていました。

■卒業生

悩みがあると、先生にいつもメールで相談させていただいています。「先生に教わったからには、恥ずかしい看護はできない」と、心に命じて頑張りました。

■先生

あなたは頑張り過ぎてしまう。手が抜けないのね。

■卒業生

それで心も体もリセットできなくなってきて。また先生に相談したんです。それで、一度現場を離れて学んでみたいと思うようになり、大学院に入りました。がん看護を研究する中で、実際の臨床経験

が生かされ、よりリアルに深く学ぶことができています。

■先生

とってもいい選択でしたね。

山岸さんが力を入れていることは？

■大学生

2年の時は、ジャズ部の部長、フットサル部の副部長、さらに図書委員会の委員長を同時に任されていました。そんな中で勉強も頑張っていたので、ハードでしたね。

■先生

私そのフットサル部の顧問です。ほぼ名前だけですが（笑）。大学で優秀な成績を修める学生は、授業だけでなく課外活動やアルバイトなど、いろんなことに力を注いでいる人が多いというデータがあります。山岸くんのようにね。時間のマネジメントが上手なんでしょうね。

●大学生活について

順天堂大学の医療看護学部を志望した理由を教えてください。

■卒業生

小学校、中学校と体が弱かったんです。多い時で、週に3回は病院に行っていました。行くたびに看護師の方が優しくしてくれて、雰囲気がとても温かいんです。病院は、「ここに来たら救われる、元気が出る！」という存在でした。そんなわけで、看護師になるのは中学生の時から夢でした。

■大学生

ずっと夢を追いつけてきたんですね。

■卒業生

真っ直ぐに来たわけではなく、実は途中で挫折がありました。高校受験時に、看護科がある学校を受けたんです。でも落ちてしまいました。結局、普通の県立高校に進みましたが、あまりのショックで、看護からは完全に目を背けていました。看護の道は考えたくもなかった。高校3年の春、進路を決める時も完全に目標を見失った状態でした。その時、高校の先生に「あなたの夢は、看護師じゃなかったの？」と言われ、気づきました。やはり、自分は看護師になりたいんだと。

■先生

高校では勉強はちゃんとした方ですか？

■卒業生

かなり真面目に。ムキになって勉強していました。そうそう、私は高校1年から3年までZ会に入っていたんですよ。国語、数学、英語を受講していました。3年では小論文を受講しましたね。かなり力が付きましたよ。



■先生

やっぱりちゃんと勉強する人だったのね。大学時代、佐藤さんの勉強の仕方はかなりハイレベルだと感じていました。順天堂大学に決めたのは何故？

■卒業生

大学はたくさん調べました。その中で、他者を慈しむという「仁」の理念を順天堂大学が掲げていたことに惹かれました。オープンキャンパスでも、就職のこととか看護師の合格率のことだけでなく、「仁」の理念についてちゃんと説明していたので、志の高さを感じて順天堂大学を志望しました。

■先生

山岸さんが順天堂大学に決めたのは？

■大学生

母が助産師をやっているし、テレビで医療ドラマなどを観ていると、よく解説をしてくれました。そんな環境でしたから、医療に関しては子どもの頃から関心が高かったです。

■先生

じゃあ、早い時期から進路を決めていたんですね。

■大学生

いいえ、進路の決定は遅かったです。高校時代は硬式野球部に入っていて、野球漬けでした。夏の県予選では16位までいったんですよ。だから真剣に受験勉強を始めたのが、高3の夏休みから。猛勉強しました（笑）。結局進路を決めたのは、12月です。理学療法士と看護師に候補を絞り、より専門的な医療知識が学べそうな看護師を選びました。それが12月ですから、オープンキャンパスはもう終わっていて、結局、「家からの距離」「偏差値」「受験科目」で順天堂大学にしました。佐藤先輩のように真面目な志望理由じゃなくてすみません（笑）。

■先生

志望動機よりも入ってからちゃんと学んでいることが大事。実際に入学してどうでした？

■大学生

順天堂大学に入ってよかった！と心から思います。みんなが保健師の資格も取得できるのは嬉しいですね。

印象に残っている授業、好きな授業は何ですか？

■卒業生

村中先生の、「看護学概論」ですね。1年生の前期の授業で、すべてのベースになっています。あと、2年次に実際に患者さんに接する実習があったのですが、その前に村中先生に「手で触れて、目で見えて、どんな看護が必要なのかを頭で考えて」と言われたことがとても印象に残っています。

■先生

覚えていてくれて、ありがとう。

■卒業生

その他に、授業の思い出ではないのですが、学生同士がお互いに患者役と看護師役に分かれて実践的な技術を学ぶ「看護技術演習」というのがありまして、その時に初めて実習着を着たのがすごく嬉しかった記憶があります（笑）。

■大学生

私は1年次の「形態機能学」が好きでした。体液とかホルモンとか、人間の体のメカニズムを学ぶもので、同級生たちはこの授業が苦手な人が多かったのですが、私は大好きでした。この知識をちゃんと持っていると、2年、3年の勉強が理解しやすくなると思います。自分は考え方が医師向きなのかもしれませんね。

■卒業生

医師向き、看護師向かって確かにありますね。医師は、疾患や症状、病気から治療方法を見つける。看護師は、患者のQOL（クオリティ・オブ・ライフ＝生活の質）を高めるための方法を考える。医師は病気を見て、看護師は人を見ると言われることもあります。でも、医師タイプの看護師も必要だと思います。

■大学生

実習で印象に残っているのは、2年次に行った2週間の臨地実習ですね。私が担当したのが末期の患者さんで、ほとんど喋れない。声をかけても、いつも返事がない。どう接したらいいのか、どうコミュニケーションを取ったらいいのか、試行錯誤しました。話す内容とか、ものすごく考えました。

■先生

その時の山岸くんのことを、担当教員がとても褒めていましたよ。

■大学生

え、本当ですか。ありがとうございます。その患者さんには、本当にいろいろ声をかけ続けました。他愛のない内容ですけどね。天気のこととか、今日も引き続きこんな治療をやっていきますよとか。ある時、その患者さんの調子が良かったのか、初めて返事をくれたんです。その時は、とても感動し

ましたね。

■先生

考え抜いて行動したんですね。それが通じたんですよ、きっと。佐藤さんは実習で最初に接した患者さんのことを覚えていますか？

■卒業生

1年生の時ですね。よく覚えています。90代の方で、ほとんどの時間を寝て過ごしていました。私が声をかけても寝たまま反応しない。でも家族の声には反応して起きるんです。その患者さんにとっては、家族の声が心地よいと感じるわけです。そこで私も家族の話し方のトーンを真似て声をかけるようにしました。もちろん私は家族ではないし、声の質も違うので、家族のような反応はありませんでした。ただ、患者さんが心地よいと感じることを模索することは大事だと学びました。

■先生

患者さんの目線で見え、考えることは本当に重要ですね。

● 5年後に向けて

将来の夢をお聞かせください。

■卒業生

大学院を修了して、がんの専門看護師として活躍していきたい。日本の、いや世界のがん看護の底上げを図りたいと思っています。



■大学生

5年後ですか。その頃は、看護師になって3年目ということですね。でもまだ自分がジェネラリストになりたいのか、スペシャリストになりたいのか、わからないんです。

■先生

大学院に進学した方がいいですよ。

■卒業生

私も進学をおすすめします。大学院で専門を追求して、得意な分野を持つことは、臨床で仕事をする上でとてもプラスになると思います。

■先生

臨床に行くにしても、修士課程は出ていた方がいいと思います。

■大学生

大学院への進学ですか。新たな選択肢ができました。

■先生

教育分野もいいですよ。さっき、「形態機能学」が得意と言っていましたね。アメリカだと看護の教員も教えている分野ですので、日本でも看護の教員が「形態機能学」を教えられるようになるのがいいと私は思っているんです。山岸くんが教員になって、教えることもできますよ。

■大学生

なるほど。

■先生

看護教員が「形態機能学」を教えているところもあるし。あと、フィジカルアセスメント※をしっかり教えられる人になれば、そっちが向いているかもしれませんね。看護の教員として教えるとなると、形態機能プラス、その形態機能が生活行動にどう影響を与えるのか、そこを教えればいい。大学の教員になるには、臨床経験が3年以上という条件が多いんです。ですから3年間一生懸命に臨床を経験し、それから大学院に進学した方がいいですよ。自分が楽しいことをできるんじゃないかしら。

※フィジカルアセスメント：問診・打診・視診・触診などを通して、実際に患者の身体に触れながら、症状の把握や異常の早期発見を行うこと。

■大学生

教員ですか。またまた新たな選択肢が増えました。

■先生

さっき、「形態機能学」を理解する学生が少ないと話していたけど、それをどう教えたら理解してもらえるか、教授法をしっかりと考えるといいかも。工夫して教えて、学生の理解を実感できたら、手応えある仕事ができると思うわ。

■大学生

いやあ、こんなに選択肢が広がるとは。じっくり考えてみます。

●高校生へのアドバイス

高校1年生の自分に、アドバイスをするとしたら？

■卒業生

私は希望する高校の受験に落ちて、悔しさからの高校生活スタートでした。それをバネに勉強をしていました。だから、せっかくの高校生活だから、悔しさだけでなく、もっと色々なことにチャレンジした方がいいよ、と言いたいですね。もちろん、勉強は大事ですよ。

■大学生

さっきの「形態機能学」に戻るのですが、高校の理科の勉強をしっかりやっておけば、理解しやすくなります。物理は浸透圧や体温の移動に通じるし、化学は体内の化学変化やphの理解につながります。高校の勉強は絶対に大学の学びの基盤になっています。だからちゃんと授業を聞こうと伝えたいです。

■先生

いいアドバイスですね。



■大学生

自分は野球部に夢中になっていたのですが、予習復習の時間を確保するのは難しかった。でも、引退後に受験勉強をしてみて感じたのは、基本的に大学受験は高校の復習だということ。それならば、授業をもっとしっかり受けて、授業中に確実に理解すれば大丈夫。これは今の高校生にも伝えたいですね。そして、ノートは工夫して書くように。黒板を写すだけでなく、先生が言うポイントをちゃんと記入しておくように。そうすれば、受験勉強もだいぶラクになるでしょう。

順天堂大学医療看護学部の素晴らしいところを教えてください。

■卒業生

「仁」の理念が、言葉としてだけでなく、ちゃんと生きていることですね。卒業生同士で話をしても、「仁」の理念が浸透していることをみんな実感していると言います。

■先生

ドクターコース（博士課程）まであることは強みですね。学部生と院生の交流もあるので、キャリアデザインの視野が広がると思います。グローバルな視点を養うことにも注力していきまして、アメリカ、イギリス、タイなど海外研修の拠点も増えています。

■大学生

自分が考える順天堂大学医療看護学部の良さは、医学部、スポーツ健康科学部との交流が多く、他学部との人脈ができることですね。医学部の人の話などを聞くと、すごく刺激になります。あと、医学部の人体解剖実習を見学できるのはとても貴重な体験になりますね。

■卒業生

私も解剖実習の見学はよく覚えています。

■先生

一般的には、医学部か歯学部しか解剖の現場は体験できないですからね。解剖実習の見学ができる看護学部は限られますね。

■卒業生

学部生だった頃、とても印象深かったことを思い出しました。順天堂大学医学部附属病院は、世界でもトップレベルの医師が多いことでも有名です。そんなドクターが講義をしてくれる授業があるんです。最先端医療の現場の話などが聞け、とてもモチベーションが高まったことを覚えています。

●インタビューに答えてくれた方々



■先生

村中陽子先生

順天堂大学 医療看護学部教授／同大学大学院 医療看護学研究科教授



■卒業生

佐藤亜紀子さん

順天堂大学大学院 医療看護学研究科 博士前期課程 がん看護学専攻2年生
2011年、順天堂大学 医療看護学部看護学科卒業し、学校法人聖マリアンナ医科大学病院に勤務。その後、順天堂大学大学院へ進学。



■大学生

山岸幸平さん

順天堂大学 医療看護学部 看護学科3年生
千葉市立稲毛高校卒。